

■・BASF
We create chemistry

除草剤を使っても、
残ってしまう雑草って、
ありませんか？

バスタ®

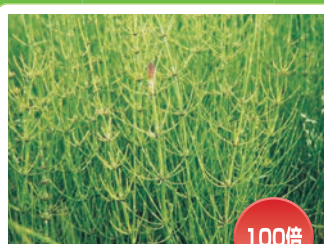
そんな“問題雑草”に、迷わずバスタ。
いままで枯れにくかった雑草にも、
高い効果を発揮します。

※写真中の数字はバスタの散布希釈倍数です。



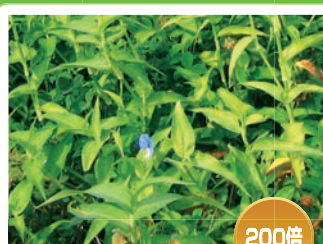
スギナ

100倍



イヌスギナ

100倍



ツユクサ

200倍



マルバツユクサ

200倍



アメリカアサガオ

200倍



イチビ

200倍



イボクサ

200倍



クサネム

200倍



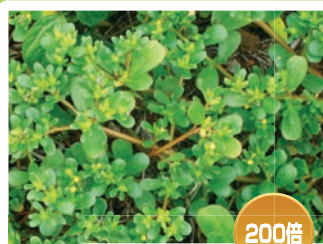
アメリカフウロ

200倍



イヌタデ

200倍



スベリヒユ

200倍



エノキグサ

200倍



キシウスズメノヒエ

100倍



ハルジオン

200倍



ヒメムカシヨモギ

200倍



オオアレチノギク

200倍



多くの作物に
登録がある



作物、人畜、
環境にやさしい



殺草スペクトラムが
広い



効果の発現が
速い



抑草期間が
長い

バスタ液剤の特長

殺草スペクトラムが広い

一年生、多年生を問わず、ほとんどの雑草に有効です。スギナやツクサ、マルバツクサをはじめ、最近の問題雑草にも高い効果を示します。

効果の発現が速い

散布後2～5日で効果が発現します。
(ただし冬～早春の低温下では5～7日)
温度の高い時期ほど、効果の発現は速くなります。

抑草期間が長い

散布後、長期間、雑草の発生を抑えます。
(次の除草が必要になるまでの期間は40～50日)

多くの作物に登録がある

適用範囲が広く、さまざまな場面でご使用いただけます。

作物、人畜、環境にやさしい

成分が土に残らない

土壌中では速やかに分解されるので、散布後すぐに後作物の播種、定植ができます。

バスタ液剤の上手な使い方 ご使用の際は、ラベルをよくお読みください。

●希釈倍数

希釈倍数	水 量				
	1ℓ	5ℓ	10ℓ	15ℓ	20ℓ
バスタ 100倍	10ml	50ml	100ml	150ml	200ml
バスタ 200倍	5ml	25ml	50ml	75ml	100ml

多年生雑草 ▶ 100倍～200倍
一年生雑草 ▶ 200倍～300倍

①注意事項

薬量の計算方法 タンク水量(ℓ)/倍率=薬量(ml)
(タンク水量 1ℓ=1000ml)

●散布方法

雑草全体が十分に濡れるように、まんべんなく散布してください。

散布
ノズル

除草剤用キリナシノズルがおすすめです。
少量散布ノズルでは、散布ムラを生じることがあるので注意してください。

飛 散

作物の周りで使用する場合は、飛散防止カバーを用いると便利です。

展着剤

不用。



注意事項



- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。
- 本剤は土壌に落下すると速やかに不活性化し、効果を発現しないので薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布して下さい。また、雑草が大きくなりすぎると効果が低下しますので時期を失ないように散布して下さい。
- 散布後6時間以内の降雨は効果を減じることがありますので、天候をよく見極めてから散布して下さい。
- 植物に薬液が付着すると薬害が生じますので、散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないよう散布して下さい。とくに、野菜類の生育期畦間散布や水田畦畔で使用する場合は作物にかからないように十分に注意して散布して下さい。
- 芝に散布する場合、生育中の芝には薬害を生じますので使用しないで下さい。また、芝の休眠直後や萌芽期に近くなってからの散布では萌芽抑制などの薬害を生じることがありますので、芝が完全に休眠している時期に散布して下さい。
- だいの畦間、株間処理に使用する場合は、噴口はできるだけ低くして、本葉にかからないように散布して下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けて下さい。
- 水源池等に本剤が飛散・流入しないように十分に注意して下さい。
- 散布器具、容器等の洗浄水は河川等に流さず、空容器は圃場などに放置せず、環境に影響を与えないよう適切に処理して下さい。

- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けて下さい。
- 蜜に対して影響がありますので、周辺の桑葉にはかからないようにして下さい。
- 誤飲などのないよう注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の指導を受けて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指導を受けて下さい。
- 本剤による中毒の治療法としては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されています。
- 本剤は眼に対して刺激性がありますので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の指導を受けて下さい。
- 本剤は皮膚に対して刺激性がありますので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落として下さい。
- 散布液調製時および散布の際は防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用して下さい。また散布液を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに洗眼して下さい。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払って下さい。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。
●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。



BASFアグリソリューション
Facebook

BASFジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>



BASFジャパン
HP